

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護グループホームとどろき

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500296		
法人名	花巻農業協同組合		
事業所名	JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護グループホームとどろき		
所在地	〒025-0132 岩手県花巻市北笹間13-71		
自己評価作成日	令和1年8月1日	評価結果市町村受理日	令和1年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした生活空間の中、入居者が各々協力して共同生活を送っています。廊下には、入居者が転倒しても重度の怪我にならないように柔軟性の高い床材を使用し、浴室には一般浴の他にリフト付き浴槽も完備しています。談話スペースやお庭にはウッドデッキ、小規模ですが畑もあり野菜や花を栽培しています。入居者様により良い生活を過ごして頂けるよう職員は外部研修の参加、施設内勉強会等に力を入れ個々のスキルアップ、チーム・ケアの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目を迎える。近代的な外観にむき出しの材木を使った梁が調和した内部は、安らぎが感じられて居心地が良い。年度初めには家族会を開催し、利用者や事業所の状況を伝えながら、ご家族からの要望や意見を集約し、互いの意志疎通を図っている。転倒時の危険軽減のためショックを吸収できる素材を使用した床材やリフト付き浴槽等の環境面の配慮に加え、利用者の重度化や高齢化に伴い、今年度は職員の介護力向上を目指し、内外での職員研修を計画的に進めている。また、初年度の外部評価後、課題を全職員で話し合い、「月1回全員で外出する」「地域との交流回数を増やす」等の利用者支援を職員一丸となって実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の定例会や勉強会で理念を共有し、実践につなげています。	ホームの理念「目くばり、気くばり、思いやり」は開設時に職員皆で作ったものである。管理者は資料の中に理念を挟むなど、職員への意識づけを心がけている。今年度最初の内部研修テーマは「理念について」とし、職員は研修終了後に報告書を提出している。日常のケアの注意喚起にと、理念をホールの壁に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は図れていません。不定期に地域のボランティアさんや、学童クラブの子どもたち、婦人部の方達が来所されて、入居者様と交流しています。	JA婦人部のボランティアが歌、踊り、紙芝居を披露したり、ホール南側のベランダに緑(ゴーヤや朝顔)のカーテンづくりをしてくれた。今年も、学童クラブの児童が来所して交流し、夏休みには西南中学校吹奏楽部が演奏を披露してくれた。利用者全員で地域の盆踊りに初めて参加し、踊りの輪の中で踊った利用者もいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	アドバイザーが地域で研修講師を行っている他に、地域の避難場所での施設の活用や認知症カフェの開催も予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(2か月に1回)行われています。詳しい内容を職員で話し合いサービス向上に繋ぎきれしていません。	運営推進会議の委員は身体拘束適正化委員も兼ねて会議を開催し、委員も身体拘束に対する理解が深まっている。管理者は、委員に防災や学校関係者の委嘱の必要性を感じている。職員の確保や避難訓練について助言いただき、委員の発案でJA婦人部との交流が始まっている。	事業所運営に関し、幅広い立場からの助言と協力を得ていく上で、様々な分野に属する方々の委員就任が望ましいことから、多方面から委員を委嘱することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の地域福祉課、包括支援センターに相談。報告等積極的に行っています。	介護報酬の取り扱いについて、市から具体的な指導を得ている。また、緊急入所に備え、空室が出た際には、予め担当課に情報提供するなど、各種の手続きや行事の案内を含め、相互に協力する関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会等で正しく理解するよう職員一同努めています。地域に不審者が居る為正面玄関を施錠する事もある。入居者様のベットに転落防止の為ベット柵を使用する際には、御家族様より同意書を頂いてから使用しています。	1名の入居者に対して、ベッド柵を家族の同意のもと記録をつけながら、2カ月の予定で使用している。職員の言葉による拘束に関しては、管理者が個別に指導している。夕方の職員交代時間にソワソワする利用者の対応に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が勉強会に参加し、注意をはらい、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネージャーは理解しているが、職員で理解している物は少ないです。今後、研修や勉強会等で周知徹底していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にしっかりと説明し理解して頂いたうえで、契約の締結・解約、同意書を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で話し合い、その内容は職員に定例会、外部の方には運営推進委員会で報告しその度に話し合いを行っています。	家族会を年3回開催している。年度初めの会には5名の方が参加した。家族からは、外出の機会を多くなど、利用者への個別的な要望が多く、事業所運営への意見は少ない。誕生日には本人の希望の献立を提供したり、近くのラーメン店に行っていたが、介護度の変化で少しずつ出来なくなってきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会の他に、日々の業務中にでも、時間を作り話や意見を聞くようにしています。	職員からは、以前より積極的に意見が出されるようになってきている。毎日の申し送り時や、勤務中でも職員からの意見を聴ける雰囲気があり、チーム力も向上してきているとしている。季節が来れば空調設備の事前清掃作業の声かけが行われたり、清拭の記録用紙の提案がなされ、日常のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各項目整備に努めていますが、職員不足の為に管理者から残業をお願いする事も多々あります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修・講習会等参加を勧めている。それに職員も答え、積極的に参加しています。介助等質問を受けた際は、管理者はじめ先輩職員がその都度指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、様々な研修会や講習会に参加して、他事業者の方と交流し意見交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が、健康福祉部の理念・施設の理念をもとに入居者様のなじみの人になるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問の際もですが、来所された際も会話をしながら、様々な意見・要望を聞き、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプラン作成の為、入居者様本人、家族様、担当ケアマネージャーより情報提供して頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員が入居者様と良い関係づくりを行い築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、各居室担当や所長・ケアマネージャーより日々の様子や身体状況等まめにお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所や面会等友人・知人が来られた際には、ゆったりと過ごして頂けるように、居室の他に談話室を使用しています。	家族への遠慮もあるのか、家に帰りたいという声は少ない、今ではホームが家になりつつある。ホームのフロアーが馴染みの場所で、畳のスペースが落ち着くようである。歩いて数分の日常的な散歩コースになっている笹間開拓記念碑が馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各職員努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、他施設に入居されても電話連絡をしたり訪ねたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中で思いや希望・要望等を把握し日々の申し送りやモニタリング等で検討し、実現できるように努めています。	入居後に生活歴や、本人の話からまとめられた「個別マニュアル」が利用者毎にあり、利用者の興味や反応の良い話題等を中心に、職員はコミュニケーションをとるように心がけている。避けた方がよい話題は全職員が理解している。自分の思いを伝えられない利用者の思いは、声かけやスキンシップ時の体の反応や表情等から汲みとるようにしている。入浴中や居室訪室時、夜勤帯に本音や昔の思い出を語ってくれることが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各職員が、個別記録(ファイル)を読んで把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が入居者様の変化に気づき、心身状態、介助方法の変更等申し送りノートに記録記入し、各毎申し送りの際に伝え現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、モニタリングを行い、ケアプランに反映させています。	居室担当が3か月に1回ケアプランに基づきモニタリングを行い、介護計画の実施状況についての評価と特記事項を記録し、その後、職員全員でカンファレンスを行い、ケアマネが介護計画の原案を作成している。利用者の急変時には、その都度計画の見直しを行っている。今年度、試行的にモニタリングを毎日実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を申し送りノートやタブレットに記録記入して、職員間で情報共有しながら見直し反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、状況に合わせて家族様と相談して柔軟に対応・取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や、健康福祉部で行う行事等把握し、参加できるように支援・努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と良い関係を築き入居者様に適切な医療を受けられるよう支援しています。	2人が入居前のかかりつけ医に家族同行で受診し、7人が入居後に協力医に変更している。家族が急に都合が悪くなった場合と協力医への受診は職員が対応し、いずれの場合も「通院・受診記録」を利用し、すべての職員で受診結果を共有している。協力医による訪問診療を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週1回訪看さんが来所されて、適切なアドバイスを頂き、時には病院受診に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療連携室と連絡を取り合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携やかかりつけ医の協力の元家族様と重度化の指針について説明し同意書を頂いています。頂いた同意書の内容は職員にも伝えて共有しています。	重度化対応の指針について、契約時に家族に説明し、状態の変化に応じて、再度、家族の意向を確認している。現在、1名の利用者の看取りの対応中で、日中用と夜間用の緊急マニュアルを作成し、万が一に備えている。今年度の職員内部研修会に「看取り介護」を組み込み、チームでの支援強化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備し万が一に備えて対応していますが、定期的に訓練は行っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修、訓練は行い協力体制も出来ています。	今年度は9月、11月の2回火災、地震を想定した避難訓練を予定している。前回の訓練で、ウッドデッキの隙間に車椅子のタイヤが挟まり時間を要したため、スロープを購入しよりスムーズな避難ができるよう準備している。夜間想定訓練は、今後の課題としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員意識して、状況に応じた声掛けを行っています。	ホームの利用者である前に人であることを職員間で共有し、自分がされて嫌と思うようなケアや言葉遣いをしないよう心がけている。トイレ誘導時の声掛けを工夫したり、居室入居時のノックを励行している。生活歴やプライドの尊重等「個人マニュアル」の内容に留意した対応が必要な時もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員、思いや希望を聞きどうしたいか自己決定ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努めてはいますが、職員のペースで支援する事がたまにあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っています。	3食とも2人のパート職員が交代で調理し、季節や行事に合せた食事を提供している。今年の花見にはお弁当を用意し、利用者の誕生日には献立を変更し利用者の食べたい物を優先的に取り入れている。持参の箸、茶わんを使い、職員も間に入って和やかな雰囲気食卓になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その都度、食事量や水分量を記録記入して職員で確認し声掛けして、各入居者様の食べる量や水分補給に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の尿意と排泄チェック表を確認しながら、誘導・介助を行っています。	日中は、椅子から立ち上がった利用者の後ろをついていき、利用者の状態に合わせた排泄支援をしている。夜間ポータブルトイレ利用者は4名、センサーマット利用者は2名であり、職員は居室スペース中央の詰所で待機し対応している。日中は声かけや定時誘導によるトイレでの排泄や失敗回避を、夜間はふらつきのある利用者の転倒に留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の無い日が2日続かないように職員間で情報を共有し対応しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を確認して、各入居者が週2回入浴出来るように努めています。	殆どの利用者が入浴を楽しみにしている。異性介助を嫌がる利用者や下肢の筋力低下がみられる利用者には、それぞれ同性介助、リフト付浴槽で対応している。日曜以外の午前か午後週2回(家族会にも事情説明し了解の上で週3回を変更)お風呂に入ってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態に変化がある場合は職員間で情報を共有して服薬して頂けるよう、努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年よりは、外出する回数は増えています。その日の希望で毎回外出は行えていません。家族様とは、協力して外出される入居者様も数名いらっしゃいます。	体調と天候を見ながら、2人の職員が利用者4、5人とホーム周辺を散歩をしている。戸外への散歩が難しい利用者は、ホールから廊下を歩いていくとミニデッキがあり、日光浴やお茶会をしている。日常的に、敷地内のJA支店へ郵便物をとりに行ったり、お届け物をしたりする利用者もいる。ホームの中では毎日ラジオ体操や、ボール遊びをして筋力低下を防止している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居様が電話連絡を希望された際は対応しています。手紙のやり取りは配送になることはありませんが、自ら書いて送る入居者様は現在おりません。要望があった際は支援・対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	用務員が2名おり、常に居室、廊下等施設内外の清掃を行っており、常に心地よく清潔に過ごされています。	広々とした共有空間は、天井が高く、明るく静かで、清掃も行き届き、カーテンやソファは緑色に統一されている。テーブルはやや低めの高さで、椅子にはボランティアが作った編み物が置かれている。ホールから廊下の所々にもソファや置の間があり、面会にも使われている。ホール脇の12畳の小上がりは、冬にはこたつを設置し、お昼寝やボランティアの舞台としても利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や和室、フロア内には、座席の他にソファや椅子を多く設置してその場、その時に合った居場所で過ごして頂けるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての物では無いですが、馴染みの物や衣類を使用しています。	利用者の好みで、自由にベッドとイスが配置され、備え付けのクローゼットがないため、洋服がけや衣装ケースを持ち込んでいる利用者が多い。居室内は、位牌や遺影が置かれたり、壁飾りや家族写真、カレンダー等が思い思いに飾られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫していますが、他の方が見ると改善出来る点が沢山あると思われます。この機会に色々ご指導願いたいです。		